

2007年9月17日(月)～21日(木)

道北 増毛山塊

徳富川～暑寒別川

L川村雅祥・鈴木きよみ(記)・他2名

17日 南暑寒荘 8:30～雨竜沼湿原 10:00～
南暑寒岳 12:30～下降点 14:00 徳富川本流
出合 BP17:40

18日 8:30～30m大滝 13:00～標高
950mBP15:00

19日 8:20～郡別岳寄りの尾根乗越 9:30～
暑寒別川右俣下降～暑寒別川本流出合
16:40～標高500mBP17:00

20日 11:00～標高400mBP17:50

21日 7:30～林道 9:00～林道終点 11:00

4年前の7月、徳富川を下流から遡行し
時間切れ敗退した。

今回はエスケープした沢を下降して暑
寒別川まで繋いで来ました。

15日夜車で出発、青森からフェリー。函
館で下船後、北海道の大地を飛ばす。

16日夕、雨竜町のダイエーで食材を買い込
み温泉に入って、道の駅雨竜へ。

ここは素晴らしく設備の良い所で、毛蟹と
酒で入山儀式。

17日曇り時々晴 朝、南暑寒荘で登山届を
出すが、「熊が出た！」だの「18日から天
気が悪いから考えて行って」だのあまりい
い事を言われぬ。入山料1人500円也。
歩き出して間もなく登山道右下に見事な
白滝が見えた。登山者は多く度々出会うが、
皆身軽な装備で大荷物に驚かれる。

どこへ行くのかと訪ねられ徳富川と答え

るも通じない。「重そうね」「はい、お酒が
重いです」「2泊?」「3泊です」「3泊
も・・・」

夏の花盛りの雨竜沼湿原は素晴らしか
ったが、秋の落ち着いた色合いの湿原も美
しい。1周4キロを歩いて南暑寒岳に登り
始める。

振返ると湿原全体が見渡せる、何度でも来
たいと思わせる景観だ。



南暑寒岳から暑寒別岳への鞍部は急斜
面を下る。前回は登りが苦しかったが、今
回は下りなのでラクチン。

ただ、数日前に熊が出たと言われた所な
ので笛を吹き鳴らしながら進む。

前回エスケープした、南暑寒沢の1本上
の無名沢から藪こぎして出た見覚えのあ
る場所から下降に入る。が、20分間たい
笹藪と格闘し沢形が出たと思ったら何と元
の場所から数m上に出た。川村さん野性の

勘はどうしたの？

気を取り直しコンパスで方向を見定めながら進み 30 分程で沢に出たが、上部から流れが有り、鞍部の反対側の沢と続いているらしくそっちから行っていればずっと楽だったと話し合う。

前の時は登りで 2 回ロープを出した。2~5mの滝が沢山あったが、川村さんの上手いルーフアイでロープを使わず出合まで降りられた。

華奢な体で重い荷物を持っていた由佳ちゃんの足がよれて時間がかかり、出合に着いたのは暗くなる直前。ガタイの良い戸高君には荷物を沢山持ってもらったが全然平気だった、羨ましい。

先に川村さんが下流へテンバを探しに行ったが良い所がなく、出合の狭いが何とかテントの張れる場所に落ち着く。この日は残念ながら釣りをする前に暗くなり、メインになる予定だった岩魚無しで、小さい焚火の傍ら品数の少ない食事を取り酒だけ豪勢に飲む。

18 日快晴 今日上部へ行くだけなので釣りをしながらゆっくり進む。空は紺碧、水が陽に反射して煌めく。10:30 郡別岳が見えた。

前回 50m滝の右側、草付きの悪い急斜面をロープを出して登ったが、今回は右の支流を少し上がってルンゼからロープなしで簡単に上がった。

綺麗な滝のかかる釜の多い沢で 2 つの釜で尺オーバーを含め今宵の宴に充分な 8 匹を釣上げる。

2 段 1 5 m滝は念の為ロープを出す。30 m大滝を左岸から巻きルーフアイばかりで沢に戻る。1 0 m滝は右から簡単に巻

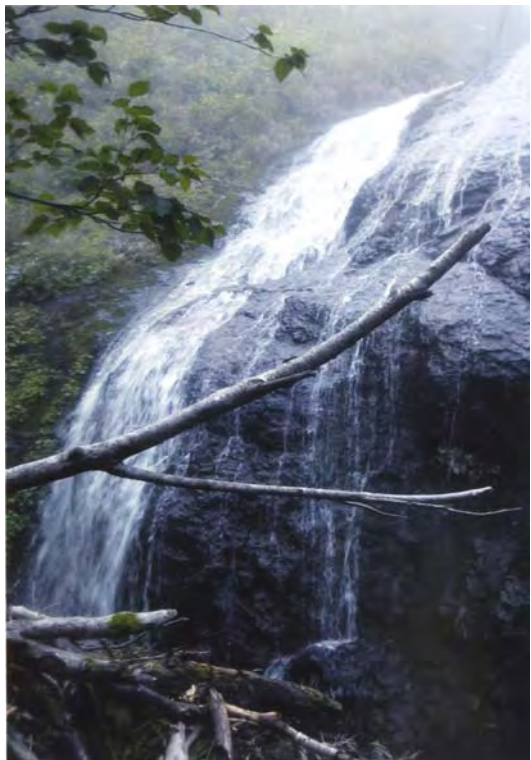
き、大釜は右の側壁をお助け紐と枝に掴まりながら登る。その後穏やかな流れの中に小滝が続くが、どれも簡単に越えられた。



源頭部の河原で盛大な焚火のそばで岩魚の刺身、唐揚げ、塩焼きを堪能。酒もたっぷりで「ああ幸せ！」

19 日曇り夜大雨 今朝も遅い出発になる。

1200mで尾根を乗越し急斜面をずるずる



下って順調に暑寒別川右俣上部へ。2~5m

のスラブ滝が続き滑り落ちるように下って行く。

大きな滝に遭遇。木に懸垂用のシュリングが下がっているが、そこからでは50mロープでも届かないので、2m下滝上の太い倒木2本に支点を取り、25mいっぱい降りた。中々見事な滝だ。

ここからも滝が連続して簡単に行かせてもらえない。最後2段15mを途中の釜に浸かりながら懸垂してようやく本流出合へ到着。20分程下り標高500m辺りで幕。

この辺りは良いポイントでも小さい岩魚しか釣れなかった。

夜中から明け方まで大雨で、テントを叩く音がうるさい。

20日 小雨のち曇り 案の定増水しているので2度寝を決めこむ。11:00、少し水が引いたので出発。流れのゆるい所を選びスクラム徒渉を10数回しながら順調に進むも、深くて水流のある淵とその先の難所に阻まれ、右岸から高巻き開始。しばらくゆるやかな斜面を移動したが、難所の先はかなりの急斜面で沢へ降りれず、上へ上へと追い上げられ、一尾根越えて1時間半後、やっと下降点があり木の枝に掴まりながら降りたが、最後5mは懸垂した。

その後もスクラム徒渉を繰り返し、1箇所お助けを使用した狭くて強い流れで川村さんが水流に押され、流されたと思った瞬間、間一髪で側壁に張り付き事無きを得る。今日中に下山は無理となり17:50標高400m付近で幕。

暗くなったので釣りは出来なかったが盛大な焚火をする。ここまで来れた、4日連続焚火も出来た、岩魚も2日は食べられた。熊さんの居た場所や通った跡も沢山あ

ったが、会わずに済んだ。

まあ上出来でしょう。

21日 晴 特に難所も無く1時間半で林道へ。途中1箇所ゴルジュを巻く時、左側の2m位の岩にロープが掛かっていた。登ると更にその上のほぼ垂直の泥壁に釣り師がつけたであろう木を縄で繋いだ立派な梯子が掛かっていたので簡単に巻けた。林道を2時間歩いて広い道路へ出る前、携帯が繋がったのでタクシーを呼ぶ。

山はやっぱりドコモのムーバですね。フォーマは繋がらなかった。

増毛の海辺のホテルで温泉と美味しい食事を楽しむ。洋ナシが袋に詰め込み放題で100円に感激。1度寝てから夜中に起きて2次会となり大量の酒が消費された。

22日 (おまけ) 長万部の気のいいお兄ちゃんの店でみそが絶品の毛蟹(安い)を5杯買ってフェリーで宴会しながら帰る。蟹で始まり蟹で終わった何とも贅沢な旅でした。

山行コメント

川村雅祥

北海道の母なる大河、石狩川の支流徳富川は道内でもかなりマイナーな沢です。

私が一番魅力を感じ興味を引かれたのは、岩魚がうじゃうじゃ居て誰でも簡単に釣れる事。また暑寒別岳のある増毛山塊には以前から非常に関心がありました。

4年前の7月、心ときめきながら行った徳富川。雪溪に阻まれ見事敗退。

今回は3泊4日予備日1日という日程で挑み、天候にも恵まれ、増毛山塊の素晴らしい魅力を十分に味わう事が出来ました。